

国際規格の動向—国際会議に出席して—

ISO/TC107/SC7(金属及び無機質被覆/腐食試験)東京国際会議

須賀茂雄

開催日:2017年1月19日

場所:千葉 柏の葉カンファレンスセンター

参加国:日本・中国・韓国・ドイツ・フィンランド 5ヶ国27名

当社に關係する審議について報告する。

須賀がSecretary(国際幹事)のSC7(腐食試験)は、日本が幹事国であり、Chair(議長)の伊藤勲氏(ISO/TC107 ISO規格検討専門委員会委員長)と須賀の両名で議事進行を務めた。

・ISO 6988(高温潤下における二酸化硫黄試験)は、SR(定期見直し)投票の結果ISO/TC156(金属及び合金の腐食)に移管された。また、同様の定量封入方式のガス腐食試験であるISO/TC35(塗料およびワニス)のISO 3231(二酸化硫黄を含む高温環境に対する耐久性試験)もTC156へ移管され、TC156が両規格の移管を了承したことが報告された。現在、ISO/TC156/WG7(腐食試験)で須賀がPLになり両規格を統合した新規規格のWDを準備中である。

・Item for future workとして、韓国より“Russian Mud Corrosion Test”のプレゼンテーションが行われた。冬季のロシア地域における、融雪剤のCaCl₂を含んだ泥による自動車のクロムめっき装飾の腐食に関する試験方法である。今後NWIPとして提案される予定。



会議風景

次回は、2018年1月23日～26日にフィンランドで開催予定。

ASTM D01(塗料)、G03(耐候試験)、E12(測色) Norfolk国際会議

*喜多英雄

開催日:2017年1月29日～2月4日

場所:アメリカ バージニア州ノーフォークMarriott Waterside Hotel

当社に關係する審議について報告する。

・D01(塗料):ASTM D7869 (Standard Practice for Xenon Arc Exposure Test with Enhanced Light and Water Exposure for Transportation Coatings)について改訂作業が完了した。またこの規格を用いたRound robinテストが計画されて、試験方法、サンプルについて議論された。

・G03(耐候試験):ASTM G156(Standard Practice for Selecting and Characterizing Weathering Reference Materials)について改訂の検討がなされ、Reference Materialsの現状について話し合われた。また新規案件の全天日射計の校正不確かさの求め方について議論され、不確かさの見積例の説明があり、相互比較試験の計画が話し合われた。

・E12(測色):2018年6月会議をAATCC, ISCCとJoint meetingにするための話し合いがなされ、日程について議論された。E2214 (Specifying and Verifying the Performance of Color-Measuring Instruments)について精度レベルの問題にしかならないが平均方法の式に間違いがあると指摘あり。再計算を行うと同時にtask groupを作り、問題のannexの考え方から検討する。E805 (Identification of Instrumental Methods of Color or Color-Difference Measurement of Materials)に△E94を残すか話し合い、ユーザーは、色々な式を使うので、残す方向で検討する。次回は、D01, G03は、2017年6月25～27日ボストン、E12は、2017年6月6～7日ペンシルバニア州ウェスト・コンショホッケンで開催予定。

< ISO 規格発行までの手順 >

予備段階	PWI	Preliminary Work Item (Project)
提案段階	NP	New Proposal for a work item
作成段階	WD	Working Draft
委員会段階	CD	Committee Draft
照会段階	DIS	Draft International Standard
承認段階	FDIS	Final Draft International Standard
発行段階	IS	International Standard

*製造本部 校正部 部長